

90年事業  
後念  
没記

# 牧水をうたう

## 短歌オペラで誕生の地発信 9/17「海の声」ドラママチックに

日向市

日向市東郷町出身の歌人若山牧水の没後90年記念事業「牧水をうたう」が16日、市中央公民館で開かれた。東京公演に先駆けて公演された短歌オペラ「海の声」や市内コーラスグループによる合唱などがあり、県内外から訪れた約460人が牧水をしのびつつ短歌や人柄の魅力を再確認した。日向市、同市教委、同市東郷町若山牧水顕彰会主催。

主権を代表し十屋幸平市長があいさつ。牧水の生涯を振り返りながら「没後90年を迎えた今も



短歌オペラ「海の声」スクリーンに映し出された短歌を歌いながら熱演する歌手(16日、日向市中央公民館)



コーラスグループによる合唱



歌碑に献酒し牧水をたたえた(16日、日向市駅前広場)

なお数々の作品は色あせることなく輝き続けている。記念事業を開催できることを生誕地としてうれしく感じる。今後とも牧水顕彰を進めていきたい」と述べた。



あいさつする牧水の孫、榎本さん

分かれ合っていた」と紹介。伊藤一彦さんの台本、仙道先生の作曲、第二でできることを楽しみに訪

ステージでは、牧水役の渡辺天さんや園田小枝子役の川越塔子さん(宮崎市出身)、太田喜志子役の柏原奈穂さんら中央で活躍するオペラ歌手が熱演。バックスクリーンに映し出された短歌を歌いながら、牧水が恋愛を通して得た愛の歓喜、人生の悲哀などドラマチックに演じた。

日向市駅前歌碑祭  
牧水没後90年記念事業「牧水をうたう」の前に、関連行事として日向市駅前広場の牧水歌碑前で「牧水歌碑祭」があった。県内をはじめ東京都や群馬、愛知県など各地の顕彰会や若山家親族、市民ら約70人が参加して歌碑に献酒し、遺徳をたたえた。

# 延岡西高同窓会 37回目の星遊会

ますます深まる母校愛 約580人集う



約580人が参加した第37回星遊会  
（テニール延岡）

エリンギはシメジに、いしく食べられる。  
シメジはエリンギに、一本 栄養価は、他のキノコ  
由蘭達（かつたつ）だ、シメジ

延岡西高校同窓会「第37回星遊会」は15日、延岡市紺屋町のエントネイホテル延岡で開かれ、同窓生や恩師関係者ら約580人が出席した。

今年35回生が実行委員（染矢貴裕委員長）を務めた。NHK大河ドラマ「西郷どん」にあやかりメインテーマは「母校はなごとも、母校愛はある！それが『星遊会』でこわす」。染矢委員長は「開校から11年がすぎた今でも西高への思いは変わらぬ、母校愛は深まるばかり。遠方の友、諸

先輩や協賛をいただいた多くの皆さまの励ましと、ねぎらいのお言葉に支えられて今日を迎えられました。心から感謝します」とあいさつ。

同窓会の野中文雄会長も「母校はなごとも...」は、星遊会の今後を祈った。

読谷山洋司市長と延岡星雲高校の藤本格校長が来賓あいさつを述べ、盛会を祝った後、昨年の実行委員長・山内靖夫さんの音頭で乾杯し、和やかにテーブルを囲んだ。

久しぶりの再会を喜び合う声飛び交ったほか、西高にまつわる〇×クイズや豪華景品が当たる抽選会で盛り上げた。また、10月と11月に開催される福岡星遊会と関東星遊会の実行委員が壇上からPRし、地元からの来場を呼び掛けた。

エンディングでは、次回の実行委員を務める36回生の首藤昇浩さんに染矢委員長から「永遠の鍵」をプレゼント。ぼんぼりに続き、互いに肩を組んで校歌を斉唱した。

タウン

2018.9.17